道徳性発達研究　2010　第５巻　第１号　1-19

論　文

道徳性発達研究会が開発したモラルジレンマ資料*

The Moral Dilemma Material Made by The Study Group for Moral Development

道徳性発達研究会**・荒　木　紀　幸***
The Study Group for Moral Development and Noriyuki Araki

私たち道徳性発達研究会では「教育の目的は子どもたちを発達させることにある」というデューイ教育哲学の下に，認知的発達段階説を提示したコールバーグ理論に基づいて道徳教育の実践研究を進めてきた．コールバーグ理論に基づく授業のねらいは，道徳的葛藤（モラルジレンマ）を集団討議によって解決に導く過程を通して，児童・生徒一人ひとりの道徳的判断力を育成し，道徳性をより高い発達段階に高めることである．研究は1982年から始まった．当初は研究会の名称を道徳教育研究会としていた．1984年に道徳性発達研究会と名称を変え，現在までこの活動は続けられている．周知のようにこの研究会が母体となって2001年に日本道徳性発達実践学会が設立された．今年の学会（11月13・14日に予定）は10年目を迎えた記念の学会開催年に当たる．さてこれまで道徳性発達研究会が中心となってモラルジレンマ授業に関する実践的研究を進めて30年近くが経つ．そこでこれまで実践で使われてきたモラルジレンマ資料，182編を，文部科学省の示す４つの視点に基づく内容項目（いわゆる徳目，道徳的価値）でもって対象学年毎に分類，整理し，合わせて原作者，掲載書籍等を示した．このジレンマ資料の分類整理表は，モラルジレンマ授業を実践する上で大いに役立つものと期待している．

キーワード：モラルジレンマ資料，教材開発，学習指導要領道徳，タイプⅠとⅡのモラルジレンマ，道徳的価値葛藤，認知的不均衡

１．モラルジレンマ資料

子どもたちの道徳性を発達させるためには，子どもたちを道徳的な不均衡状態，価値葛藤の状態に置く，つまり道徳的な正しさが曖昧でどちらか決めかねる岐路の問題場面に置く必要がある．そのための道徳資料のことをモラルジレンマ資料と呼ぶ．それは一般に，オープンエンドの形で投げかけられる道徳的な価値葛藤の物語である．さてこのような道徳的に不均衡な状態は，子どもたちに解決することが意味のあることだという自覚をもたらし，解決しようとする動機づけを高め，均衡化へ向けての努力を促すことになる．

(1)　モラルジレンマ資料，２つのタイプ

先に述べたように，子どもたちの道徳的な思考や感情を刺激して，道徳的な問題解決学習に取り組ませる素材，ないし手がかりをもつものが道徳的ジレンマ，道徳的価値葛藤資料である．これらの物語りの構造から，モラルジレンマは図１に示すように大きく二つに分けることが

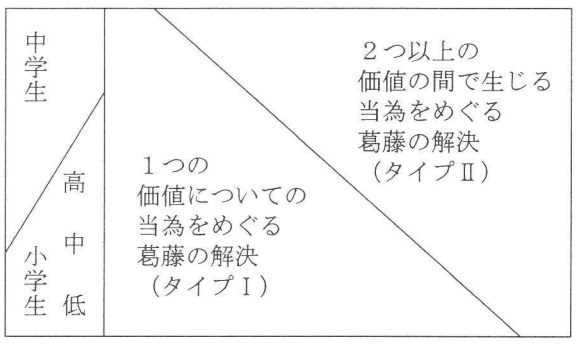

図１　２つのタイプのジレンマ

＊2008年 AME 学会で荒木が代表して発表したものに資料を追加し，本文を修正加筆した．
＊＊研究会が発足当時の事務局は兵庫教育大学にあったが，現在は神戸親和女子大学荒木研究室にある．
＊＊＊神戸親和女子大学大学院教授；道徳性発達研究会代表

できる．

低学年で使われるモラルジレンマは，一つの価値についての当為をめぐって生じる葛藤（**タイプⅠのジレンマ**）を扱ったものが多い．高学年では，二つ以上の価値の間で生じる当為をめぐる葛藤（**タイプⅡのジレンマ**）を扱ったものが多く使われる．いずれのタイプのジレンマについても選択されるべき複数個の行為それぞれに道徳的に見た善さや正当性がみられ，すぐには道徳的な判断がつかないように構成されている．

なおジレンマ資料はパソコンでもっと遊んでいたいが，犬の散歩もしないといけないというように，強い心と弱い心，あるいは良い心と悪い心の葛藤といった価値・反価値の葛藤は含まない．

そこで，先ずモラルジレンマ物語りとはどのようなものなのか．タイプ１の例話，「まほう使いの眼鏡」を次に示す．

１）タイプⅠのモラルジレンマ物語り

《まほう使いの眼鏡》

森の中で拾った指輪をはめた途端，まほうの国へやってきたバンとケーンは，まほう使いから，「バンケーンよ！なくした眼鏡を探し出してくれたら，素敵なほうびがつかわす．」と言われた．二人はまほう使いがなくした眼鏡を探すことになった．

散々苦労して，ついに二人は眼鏡がプールの飛込み板横の水の中に落ちているのを見つけた．最初に眼鏡を見つけたのはケーンであったが，バンがケーンの手を借りて水の中から眼鏡をとり上げたのである．

二人はどんなほうびがもらえるかと楽しみにして，まほう使いのところに眼鏡を届けた．ところが，まほう使いが用意していたのは，まほうの時計一つであった．

この時計はどちらのものか．二人はそれぞれに正当性を主張して譲らない．

さて二人はどうすればよいか．

（コールバーグ作）

「まほう使いの眼鏡」は低学年向けである．このお話では公平・公正という一つの道徳的な価値が問題にされている．つまり，バンとケーンのどちらがまほうの時計をもらうべきか．どちらがもらう権利があるか．１つを２つに分けることができるのか．どのような分け方をすることが公平・公正だといえるかが問われている．このようにタイプⅠのモラルジレンマ資料では，ある特定の道徳的価値に合致する行為がいくつか用意され，その行為の選択をめぐって物語の主人公に葛藤が生じている内容である（オープンエンド）．

２）タイプⅡのモラルジレンマ物語り

ここでは，「ハインツのジレンマ」に見られるような２つ以上の価値の間で生じる当為をめぐる葛藤が問題にされる（**タイプⅡ**）．

《ハインツのジレンマ》

ヨーロッパで，ある婦人が病気で死にかかっていました．医者は，彼女を救うには，ただ一種の薬しかないと言いました．

この薬は，同じ町に住んでいる人によって発見されていました．それを作るのに，200ドルもかからなかったのに，2000ドルの値をつけていました．

この病人の夫，ハインツは，薬を買うために金を借りようとし，知人を何人もたずねましたが，必要な金の半分しか借りれませんでした．

この人は，薬を作った人に，妻が死にかけているので，薬を安く売ってくれるか，後払にしてくれるように頼みましたが，作った人は「いいえ，私は金をもうけるために薬を作っているのだ」と言いました．

悩んだ末に，ハインツは店に押し入り，薬を盗みました．ハインツは，薬を盗むべきだったのですか．

なぜ，そうすべきだったのですか．

（コールバーグ作）

「ハインツのジレンマ」のような資料をタイプⅡのモラルジレンマと呼ぶ．

さて，この物語の主人公，ハインツの心の中のには，二つの考え，つまり，人間の命はかけがいないもので，もっとも大切にされるべきだという「生命尊重」の道徳的価値に従がわなければならないという考えと，人間として法律の定めるところに従って社会生活をすべきであるという「法律遵守」の考えが，共に存在すると思われる．

そのハインツが今，妻の命を救うために薬を盗むべきか，盗むべきでないかの行為の選択を迫られている．この状況では，ハインツはそれら二つの道徳的価値に合致した，あるいはそれらに反しない行為をとることはできない．どの行為を選択するにしても問題がつきまとう．たとえば，「生命尊重」の考えに従う時，「法律」を破ることになるし，「法律遵守」の考えに従う時，「生命尊重」を犠牲にすることになる．そのためにどのように解決するか，どの価値を選択するかで，この種のジレンマには

常に困難が伴っている．

タイプⅡのモラルジレンマ資料では，このような複数個の道徳的価値に基づいて作られた価値葛藤の状況下で，主人公がいずれの価値を依りどころとした行為を選択すべきかの判断，ないし判断の是非（オープンエンド）が求められている．

このような比較的複雑な問題場面の中で道徳的判断を下すためには，この葛藤をめぐって考慮し，配慮すべき点がタイプⅠの資料と比べて比較的多い．そのため，この種のジレンマ資料には高学年向きのものが一般に多くなる．

2．問題のジレンマを解決する過程

ジレンマの解決は既に述べたようにオープンエンド形式（つまり，選択の自由が保証され，個人の責任で行為が選択される.）である．その場合，タイプⅠのジレンマでは，二〜五個の選択肢から一つを選択させているが，タイプⅡでは二つの行為から一つを選択させている．

なおジレンマ資料はクラスで現実に起こっている問題を直接扱ってはいない．それは子どもたちの現実の生活を見通して，また，後の討論授業（モラルディスカッション）を想定して，仮説的に作った話である．モラルジレンマと対峙した時，どの行為が道徳的に見てより望ましいかの選択とその理由について，多様で，且つ対立する多くの考えが引きだせるように，資料の中の人間関係や葛藤状況には工夫が施されている．

さて，このようなジレンマ状況に追い込まれたら，私たちはいったいどのように考えて判断し，行為を選択するのだろうか．次に，具体的に考えてみよう．

(1)　日常生活でのジレンマ解決

日常生活で私たちは，あちらを立てれば，こちらが立たないといった人間関係でジレンマに陥ったり，同じ時間に約束が重なって，どうしたらよいかで迷うことがある．そのような時，問題が大きく露呈しないように，諦めたり，意見を引っ込めたり，相手にあやまったり，相手を説得したりし，また八方丸くおさまるように，折衷案や妥協策を考えて，つじつまを合せて問題解決を計ろうと努力する．日常のジレンマの解決は，このように，できるだけまわりの人との間に波風を立たないような解決策を考えて，それで済ませることが多い．

(2)　授業でのジレンマ解決

授業では問題解決のモデルとして子どもたちにきちんとジレンマをとらえさせ，充分に考えた末，価値選択して判断させることが大切である．そのため，私たちは資料の立ち止まり読みといった方法をとっている（この点については私たちの実践研究論文に当たって下さい）．モラルジレンマという興味深い資料を使っても，しっかりした価値選択をさせないままに，方法論で考え，判断を求めていると安易なまあまあ主義，妥協主義の子どもを育てることになってしまう．そこで，授業では，第三の行動や方法が現実にはとれないことだと了承させた上で，多くの場合に二者択一的に考えさせるようにしている．先の「まほう使いの眼鏡」のジレンマの場合では，子どもから第三の方法，『メガネをかけていないまほう使いが二人を一人だと見間違えたのだから，まほう使いにもう一つプレゼントを用意してもらえばよい』といった考えや『どちらかが魔法の時計をもらって，もう一人が魔法の国に連れてきてくれた指輪をもらえばよい』といった考えが出されたとしよう．その場合，それらの考えがすばらしいことを認めた上で，今日の話し合いでは，プレゼントが一つしかないので，どうすることが二人にとって公平なことかを一緒に考えようと告げる．

また，「ハインツのジレンマ」だと，問題となっている二つの価値に違反しない第三の行動を考え出そうとするだろう．たとえば，「サラ金でお金を借りればよい」とか，「宝くじをたくさん買えばよい」や「病気になって困らないように，前もってお金を貯めるなり，保険に入るなりしておくべきである」などである．そのように答えることで，子どもたちはジレンマを解消しようとする．その場合にも，その答えは現実的でなく，差し迫ったことは「法律遵守」と「生命尊重」の価値選択の問題であることを告げて，ハインツの取るべき行為について考えさせる．

そこで次にやらなければならないことは，どの行為が道徳的により優れているかを吟味したり，問題になっている二つの価値それぞれについて，判断した結果起こるプラス面とマイナス面を丁寧に検討していくことでどれを優先すべきか判断することになるだろう．

それらは価値の明確化の過程でもある．つまり，一方の価値や行為を選ぶことからくるさまざまな弊害を最小にする努力をしながら，結果としてある特定の道徳的な価値を優先する決断をすることであろう．

その際大事なことは私にとっても関係する人にとってもためになる，価値あることは，どうすることかという役割取得の考え方を判断に生かすことである．「まほう使いの眼鏡」のジレンマでいうと，お互い自己主張が強く，バンにもケーンにも時計を優先できないとなると，時計は一つだし，どちらも欲しがっているから，「この際じゃんけんできめるのがよい」という分化した固い公平感の決断もあろう．しかし，役割取得の考えを取り入れることで，「どちらも時計を必要としているのだから，二人が交代で使えばよい」といったそれぞれの思いを統

合した，発達的にすぐれた考えに達することもできる．

そのようにして得られた判断は，他方の価値の否定でも，切り捨てでもない．要するにぎりぎりのところまで考え，より優れた考えのもとに統合していくことがここでは大切にされなければならない．このように，安易に，無責任に二者択一的に判断することがあってはならない．

3．モラルジレンマ資料に基づく道徳判断と道徳性の発達

モラルジレンマとは二つ以上の道徳的価値の間で生じる当為をめぐる葛藤，あるいは一つの道徳的価値についての当為をめぐる葛藤である．授業でのジレンマの解決はオープンエンドであるが，多くの場合の解決は二者択一的である（選択肢の数は必ずしも二つにこだわらなくてよい）．道徳の授業では本音が出なければいけないとか，建て前で話し合うことも必要である，といった百家争鳴の意見があるが，モラルジレンマの解決には子どもが口に出すタテマエもホンエもいずれも問題解決に必要だと考える．

たとえば，ハインツのジレンマ（ガンにおかされた妻を救うために，薬を盗むべきか，否か）では，ハインツは奥さんを助けたいという強い個人的な動機をもっている．その動機は深く吟味すると人の命はかけがいなく大切であるという生命尊重の価値につながっていく．さて，奥さんを助けたい止むに止めない気持ちが引き出す最終的な行為は社会的規範，盗みはよくないという順法精神と対立，拮抗することになり，モラルジレンマが引き起こされる．

このような状況に追い込まれたら，子どもたちはどのように考えて判断するのだろうか．

まず，二つの価値に違反しないような第三の行動を考え出すであろう．次ぎに，二つの価値を同時に考慮しながら，それぞれ判断した結果起こるプラス面とマイナス面を丁寧に検討していくことになるであろう．そして，一方の価値を選ぶことから来るさまざまな弊害を最小にする努力をしながら，結果としてある価値を優先することになろう．それは他方の価値の否定でも切り捨てもない．要するにぎりぎりところまで考え込むことが，ここでは大切にされなければならない．

そのような中で子どもたちは「生命尊重」を通して「法律遵守」のあり方を考え，「法律遵守」を通して「生命尊重」のあり方を考えることになる．そこでは安易に二者択一的に判断することがあってはならない．

かくしてこのモラルジレンマの解決の過程で，人は，家族愛や夫と妻の関係，奥さんの人柄，薬屋の商売人としての倫理や権利などそこから派生する様々な問題を吟味することになり，その結果それらの問題を全体として整合，統合させて，薬を盗むべき，盗むべきでない，という（判断）解決が計られる．そのような解決は，それぞれの子どもにあっては，それぞれの道徳性発達に対応した道徳的原則の作り上げ，価値の分化，統合による「規範性と普遍性」の向上ということができ，このような経験の積み重ねにより，子どもたちはそれぞれにより高い水準の道徳性を身につけていく（段階的に道徳性が高まっていく）．

コールバーグは道徳性の発達について，前慣習的水準から，慣習的水準を通って，慣習以降の自律的・原理的水準に至る3水準6段階の発達を仮定している．ハインツのジレンマではどのような理由づけが発達段階の違いによって為されてきたのだろうか？この詳細については，荒木紀幸・八重柏新治・前田和利（1986）の道徳性発達の測定マニュアルを参照されたい．そのマニュアルでは「山田さんのジレンマ」の名の下に小学生を対象に収集された結果に基づいて，発達段階別，道徳的価値別に，理由づけがまとめられている．なお段階4以降の高次の道徳性発達段階の理由づけについては，コールバーグが開発した「Standard Form Scoring Manual」の part Ⅱ，Ⅲから理由づけを翻訳抽出して用いている．

奥さんを助けたいという個人的な動機や無情な利益追及型の薬屋に対する怒りの感情は，言われるところの「ホンネ」の部分であり，生命尊重や法律遵守，所有権の保護，社会秩序への志向などは「タテマエ」に属することになろう．しかもジレンマの解決で大切なことは「ホンネ」の解釈が「タテマエ」である社会的規範の吟味やその修正をもたらすかもしれない点である．いわゆる，概念くだき（その結果，道徳的な価値の明確化が起る）が話し合いの中で生じる可能性がある．奥さんを助けることが出来ない不条理な社会を，どうすればあらゆる人にとって公正，公平な社会とすることが出来るか，という新しい問題提示となるかも知れないのである．

このようにモラルジレンマ授業では，本音と建て前のとの間の意見の交流を軸に話し合いが行われる．多くの場合，特に小学校段階の子どもたちでは，活発な意見が飛び交う．授業を通してなされる意見の交流がそれぞれの子どもの道徳的価値についての考え方に影響を及ぼすとき，授業がそれぞれにとってドラマ性を帯びたといえよう．つまり，授業が彼らにとって意味ある経験となるのである．

その意味でドラマ性とは，必ずしも見た目の活発な意見の交流と対応しているとは限らない．時間をかけても表面的，皮相的な話し合いに終始していたのでは，ドラマ性が強く見えても，意味はない．黙って人の話に耳をかたむけ，自分の頭の中で思い巡らすことが充分に議論に参加している事になっている．これは中学生に多い．

また話し手にとって，黙ってきく聞き手は，時には「沈黙は金なり」の大きな存在となっている．その意味で授業の評価は軽々しく行えない．授業後に行われる研究会では十分に分析されないままに，個人的印象や主観的な判断で授業評価がなされることが多い．このような場合には評価が当たっていないことが多い．

4．資料づくりの原則

資料づくりはコールバーグ学派の考え方と基本的には同じである．学習指導要領を眼下に入れたモラルジレンマ資料の作成で我々が特に大切にしている要件は次の７点である．

⑴　お話はできるだけ単純とする

モラルジレンマ状況の説明や事実の記述は複雑であるより，単純な方がいい．そのためには，登場人物の数は３，４人が適当なところである．授業が45分から50分であることを考えると，文章の長さは，小学生では２千字程度，中学生だと３千字程度である．ジレンマの構造を明確に示し，話し合いに必要な情報を簡潔に示すためには，登場人物を限定し，描写をできるだけ簡略化するのが基本である．たとえば，「まほう使いの眼鏡」ではバンとケーンとまほう使いの３人が，「ハインツのジレンマ」ではハインツと薬屋の２人が話のキーパーソンである．

しかしながら，ジレンマが扱う内容によっては，子どもの視覚（色や形，動きなど）や聴覚（音やリズムなど）を刺激する表現や描写の工夫が必要である．低学年ほどこの点の配慮がいる．

たとえば，依藤佐代子原作の「もみじのはっぱ」では，小学２年生を頭に描き，秋の野山を背景にオリエンテーリングで速さを競うかけっこ競技を題材としている．子どもへの配慮として，すぐに形や色をはっきり思い出せる紅葉の葉っぱや紅い色，イチョウの形と黄色い色，色々な大きさのドングリの実などを登場させている．かけっこという身近な活動を通してルールや決まりを考える中で，「公正・公平」や「思いやり」，「向上心」について考える内容になっている．

中学生の資料，松尾廣文原案「南洋のキラ」では，自然に恵まれたカウラ島を開発すべきかの村長の悩みを扱っている．テーマの環境問題に迫る手だての１つは，カウラ島の美しさをいかに丁寧に描写するかである．青い海，その底にたたずむ紺碧の珊瑚礁，木々の緑，夕日の朱色，それらが渾然と溶け合ったカウラの美しさを表現することは鮮明なイメージを作り出し，問題を生徒の身近なものとさせる上で十分効果的であった．このように内容によって資料を多少長くしてもやむを得ないこともある．

⑵　オープンエンドである

モラルジレンマは正しさにおいて曖昧である．解決の方法には，（Ⅰ）２つの解決，行為から１つを選ぶという価値の順序づけと（Ⅱ）止揚や弁証法的解決がある．話し合いにより，登場人物に役割取得することで，より広い視野から全体を見通すことで道徳的な見方の分化を進め，道徳性の段階上昇をもたらす．

⑶　道徳的な意味について２つ以上の論点が含まれている

同じような行為も立場や観点を変えると全く対立し，相容れなくなり，別物と思えた行為が視点を変えると同じものに見えるなどが，話し合いの論点になる．そのような情報を提供できるジレンマになっていることが大切である．

⑷　表面的な葛藤とならないためにも，対立する価値の判断・理由づけは低次から高次まで幅広く表れること

中学生では段階４までが捉えられる内容とする．

⑸　現実の特定個人を傷つけたり，攻撃する場面や状況を設定しない．特に，登場人物の姓名や人物像について，細心の注意を払うこと

道徳の資料では現実を描くことが多く，様々な立場の子どもがその資料を読むことになる．クラスの子どもに問題意識を持たせ，クラスのもつ悩みや問題の解決のために教師はよく資料を自作する．このような場合，子どもが負担になるような書き方だと使えない（本人が傷ついていることを教師や仲間には見えないことが多い）．具体的に人物が想定できるものはできれば避けたい．深刻な問題を扱ったモラルジレンマ資料が注目されることが多いが，モラルジレンマの本質はよりよく生きるために，人間はどうあるべきか，私はどうすべきか，を考えさせるものである．夢や希望を持てるような，生きる力や勇気が湧いてくるモラルジレンマ資料がたくさん加わることを願っている．

⑹　クラスの実態を押さえ，児童生徒個々の必要感に見合ったジレンマにする

しかし、内容が現実的になるほど，高い道徳的価値や理想からはずれてしまう恐れがある．そこで，子どもがより深く価値追求できるような内容の工夫に心がけなければならない．言い換えれば，現実に近いジレンマを扱うことにより，子ども自身がその資料の中へ，自己を入り込ませることができ，子どもの持っている生の声が出てくるという利点と，現実を超えた高い価値を追求でき

るという利点をうまく調和させることが大切である．

なお，モラルジレンマ授業では，子どもたちがジレンマ物語をしっかり理解し，価値葛藤を引き起こすように，「立ち止まり読み」を積極的に導入している．その過程のなかで子どもたちはそれぞれに自分の生活とジレンマ物語とを結びつけることができ，それぞれが自分のジレンマとして道徳的な問題の解決に立ち向かうことになる．

(7)「主人公は何をすべきか」というように，すべき（当為）を用いて，主人公のとるべき行為を意志決定させる

授業の最終で，「主人公ではなく，あなたならどうすべきですか」といった発問をされる先生がいる．そのような発問の仕方では子どもの中から道徳的に見てより高い理由づけを期待することは難しい．「主人公はどうすべきか」と問われることで，子どもたちは主人公の立場になって考えることができ，人としてどうあるべきか，どうすべきかを真剣に追究し，考え，責任を持って判断することができるのである．自己との関わりで言うなら，理想に向けて自己を近づけるように判断することができるのである．「あなたはどうすべき」だと自分の過去に縛られてしまい，立派に振る舞うことなどできないといった判断になりやすい．このような問いかけでは，今ある自分の考え以上に自己を高めることはできない．

5．モラルジレンマ資料の意義

授業におけるモラルジレンマ資料の意義について，荒木（1989）は(1)学習意欲の喚起，(2)集団討議によるより高次の認知的葛藤の出現，(3)問題解決のための認知方略の獲得（役割取得の積極的な活用）の3点をあげ，以下のように説明している．

(1) 学習意欲の喚起

第1の意義は，問題解決に向け，子どもたちのモチベーションを高めることにある．「モラルジレンマ」とは基本的には道徳的価値の間の差し迫った葛藤をいう．このような葛藤場面は，①子どもたちに解決を迫られている問題とは何かを気づかせ，目覚めさせる．②そしてそれぞれの価値に従った行為のうちどれがより正答であるかを即答できないことから，そのような道徳的な問題に対する子どもたちの道徳的な感受性を高める．③さらにジレンマを解決するためにそれぞれの道徳的な価値について深く考えさせる機会（自己の考えの吟味，価値の明確化）を提供し，解決への意欲を喚起させることになる．つまり，第一点として，「道徳的問題解決への内発的動機づけ」的意義を認めることができる．

(2) 問題解決の過程の中で新たな高次の認知的葛藤の出現

授業ではモラルジレンマを手がかりにして集団討議が行われる．それは自分の意見と異なる他者のさまざまな考え方が存在することを知る機会でもある．矛盾する，相容れない意見や自分が気づかなかった見方との出会い，他者から与えられる発達的に見て一段階上位の推論は新たな認知的葛藤を子どもの中に生じることになろう．また討論の中で与えられる「役割取得の機会」は他者の立場から問題を見つめ直したり，社会的な見通しに立って問題を考える機会のことであり，同様に認知的葛藤をもたらすことになろう．そのような葛藤は他者の考え方と自己の考え方の「統合」を求めるように働く．このような認知的葛藤の解消に向けた子ども自らの意見と他者の意見の統合（道徳的原理の再構成）の中から道徳性が発達していく．つまり，ジレンマを介して為される認知的葛藤のより構造化された解決が道徳性の促進をもたらすということが第二点である．

(3) 認知方略の獲得

「モラルジレンマ」に基づく授業の積み重ねは，問題解決には幅広い役割取得の利用が意味あることだという認知的方略の獲得と利用の学習という積極的な意義が含まれている．つまり，道徳的な問題の解決には，自分のためになり，みんなのためになることは何か，自分もみんなも大切にされるためにはどうすればよいか，という他者の要求や考えと自己の要求や考えを「統合」する視点を取り入れた意思決定が，自然な形でなされるようになる．

6．開発したモラルジレンマ資料の概要

私たちが開発した資料182編の分類表は表1に示した．このうち比較的よく使われている30編を取り上げ，物語の概要とモラルジレンマ（葛藤）を引き起こした道徳的価値を表2に示す．

なお，フェアネスマインド（道徳性発達検査）小学生版・中学生版（正進社発行）で使われているモラルジレンマ物語21編はこの表1には含めていない．

表１　道徳性発達研究会で開発したモラルジレンマ資料182編の内訳：対象学年別　分類表

(出典)

① 荒木紀幸（編著）1988「道徳教育はこうすればおもしろい―コールバーグ理論とその実践―」北大路書房.
② 荒木紀幸（編著）1990「モラルジレンマ資料と授業展開　小学校編」明治図書.
③ 荒木紀幸（編著）1990「モラルジレンマ資料と授業展開　中学校編」明治図書.
④ 荒木紀幸（編著）1993「資料を生かしたジレンマ授業の方法」明治図書.
⑤ 荒木紀幸（編著）1993「道徳性の測定と評価を生かした新道徳教育」明治図書.
⑥ 荒木紀幸　1996「モラルジレンマ授業の教材開発」明治図書.
⑦ 荒木紀幸（編著）1997「続　道徳教育はこうすればおもしろい―コールバーグ理論の発展とモラルジレンマ授業―」北大路書房.
⑧ 荒木紀幸（編著）2002「モラルジレンマによる討論の授業」小学校編　明治図書.
⑨ 荒木紀幸（編著）2002「モラルジレンマによる討論の授業」中学校編　明治図書.
⑩ 荒木紀幸（編著）2005「モラルジレンマ資料と授業展開　第２集　小学校編」明治図書.
⑪ 荒木紀幸（編著）2005「モラルジレンマ資料と授業展開　第２集　中学校編」明治図書.
⑫ 荒木紀幸　2007「モラルジレンマで道徳の授業を変える」明治図書.
⑬ 佐野安仁・荒木紀幸（編著）1990「道徳教育の視点」晃洋書房.
⑭ 荒木紀幸　1990「ジレンマ資料による道徳授業改革」明治図書.
⑮ 荒木紀幸・鈴木　憲　2005　５章　モラルジレンマ業の理論・実践　諸富裕彦編「道徳授業の新しいアプローチ」明治図書　82-100.
⑯ 荒木紀幸監修　2000「道しるべ」中学生の道徳　１，２，３年　正進社.
⑰ 吹田市教育委員会　2000　いきいき　吹田市中学校道徳教育副読本.

小学校	１～２学年(28)	３～４学年(37)	５～６学年(51)	小学生全般(1)	計117	計182編
中学校	１学年(15)	２学年(14)	３学年(18)	中学生全般(16)	計 63	
高等学校				全般(2)	計 2	

○本文で紹介したモラルジレンマ資料は，★(番号)で示した.

小学校（低学年）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）		出典	原案
１．だれにたくさんあげようかな*	ねずみくんにあげるべき パンダ君にあげるべき クマ君にあげるべき	4　公正・公平		②⑫	Demon 荒木紀幸(訳) 徳永悦郎改作
２．ぼくのチョコレート*	弟にあげるべき 一人で食べるべき	4　公正・公平	4(3)　家族愛 1(2)　自主自立	②	徳永悦郎
３．スケートに行きたいな	スケートに行くべき スケートに行くべきでない	4(1)　約束の尊重 1(2)　自主自立			山本悦郎
４．まほうつかいのプレゼント*	鹿を列に入れてやるべき そのまま並んでいるべき	4　公正・公平	2(2)　親切・同情 権利義務	①②	Kohlberg・荒木紀幸・須之内千秋(訳)
５．まほうつかいのメガネ* ★(タイプⅠ例)	パンに時計をあげるべき ケーンに時計をあげるべき	4　公正・公平	権利義務 権利義務	①② ⑥	Kohlberg・荒木紀幸・須之内千秋(訳)
６．木の実とり	木の実とりに行くべき 買い物に行くべき	2(3)　信頼・友情 4(3)　家族愛		②	山本悦郎
７．たりなかった五円	取るべきでない 取るべき	2(3)　金銭の取り扱い 4(1)　約束の尊重			波平剛司
８．お父さんの誕生日	プールに行くべき プールに行くべきでない	4(1)　約束の尊重 4(3)　家族愛			高木智明
９．２匹のライオン	アーサを選ぶべき ジャックを選ぶべき	2(2)　親切・同情 1(2)　自主自立			畑　耕二
10．さあ　こまった	練習に行くべき 練習に行くべきでない	4(1)　約束の尊重 2(2)　親切・同情			蓮佛裕子
11．お母さんとすてねこ ★(5)	そのままおいて帰る ねこを連れて帰る	4(3)　家族愛，4(1)　約束の尊重 3(2)　生命尊重		④⑧ ⑫	三森貴子
12．ぽんたとリンリン* ★(1)	ぽんたのもの リンリンのもの	所有権　4(1)　公徳心，約束の尊重		④⑦ ⑫	西前弘幸
13．ありとせみ	食べ物をあげるべき 食べ物をあげるべきでない	2　寛容，3(2)　生命尊重 1(2)　勤勉・努力・自由責任		④	森川智之
14．二つの約束	お見舞いに行くべき お見舞いに行くのをあきらめるべき	4(1)　約束の尊重 4(1)　約束の尊重			日野正行

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
15. とうもろこしができた* ★(4)	ウサギとぞうさんにあげるべき 子ネズミたちに2つあげるべき ぞうさんと小ネズミにあげるべき ウサギさんと小ネズミにあげるべき 4つに分けてみんなにあげるべき	4　公正・公平　1(2)　勤勉努力 4(2)　家族愛 2(4)　感謝	④⑩	堀田泰永
16. もんたの投げたボール	ボールを取りに行く すぐに教室に帰る	1(1)　節度，節制，自立 4(1)　公徳心，約束，決まりの尊重	④	植田和也
17. あすかの飼育当番	一人でも当番活動をする 一人では当番活動をしない	3(2)　生命尊重 4(1)　責任	⑧⑫	野口裕展
18. あそぼうね	遊びに行く方がいい 宿題をする方がいい	4(1)　公徳心，約束，決まりの尊重 1(2)　勤勉努力	⑧	岡田達也
19. クモのすと蝶 ★(3)	蝶を逃がすべき そのままにしておくべき	3(1)　動植物愛護，3(2)　生命尊重 2(2)　思いやり・親切	⑧⑫	奥村光太郎 植田和也
20. もも色の木イチゴ	おかあさんにあげるべき おばあさんにあげるべき	4(2)　家族愛 2(2)　思いやり・親切	⑥⑩	依藤佐代子
21. もみじのはっぱ* ★(2)	あげる 捨てる そのまま走る	4　公正・公平		
22. ターザンロープ	タッちゃんと代わる 男の子と代わる	2(2)　思いやり・親切 4(1)　規則尊重	⑦	岡田達也
23. だれのをさきにしようかな*	さるさんの洋服を先に作るべき ライオンさんの洋服を先に作るべき パンダさんの洋服を先に作るべき	4　公正・公平　4(1)　規則尊重 3(2)　生命尊重 2(3)　信頼・友情	①	文渓一部改作 徳永悦郎
24. どうする？ちはるさん	黄色のえのぐを貸すべき えのぐを貸すべきでない	2(3)　信頼・友情，助け合い 4(1)　規則の尊重，節制	⑫	須田慎二
25. 桑の実をのり君に	自分の手で桑の実を採れるようにする 日直の仕事に向かう	2(3)　信頼・友情，助け合い 1(2)　勤勉努力，4(1)規則尊重 4(4)　愛校心・楽しい学級	⑧	松本　朗
26. ブランコ		2(3)　信頼／友情・助け合い，4(1)　規則尊重 4(2)　自他の権利(所有権)	⑧	松本　朗
27. 帰るべきかザリガニを取るべきか	家の手伝いをすることを選ぶ 一緒にザリガニを取る	4(3)　家族愛	⑧	松本　朗
28. どう分けるのがよいか	くまのプーさんが最も多い 重いものをたくさん運んだ順 3人とも同じ	4　公正・公平　2(3)　信頼・友情	⑧	松本　朗 ①チョコレート課題を参考

小学校（中学年）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．やさいなんて大きらい*	やさいを食べてあげるべき やさいを食べてあげるべきでない	2(3)　信頼・友情　2(3)　信頼・友情 4(1)　約束の尊重	②	大山雅代
2．もっとやろうよ	練習を続けるべき 練習をやめるべき	1(3)　向上心 4(1)　規則の尊重	①②	畑　耕二
3．わすれもの	忘れ物を取りに帰るべき 忘れ物を取りに帰るべきでない	2(3)　信頼・友情 4(1)　規則尊重	②	辻本直子
4．なくしたかぎ	一人で家に帰るべき 一緒に探すべき	4(1)　約束の尊重 2(2)　親切・同情	②③ ⑦	矢野幸彦
5．どうする！あきら	掃除をするべき 掃除をするべきでない	4(1)　責任 2(2)　思いやり	②	徳永悦郎
6．当番*	手伝ってあげるべき 手伝ってあげるべきべきでない	2(3)　信頼・友情　2(2)　親切・同情 4(1)　規則尊重		高木智明
7．決勝戦	交代するべき 交代するべきでない	4(1)　規則尊重 1(3)　向上心		畑　耕二
8．消火栓調べ	練習試合をするべき 消火栓調べに行くべき	4(1)　責任 4(1)　約束の尊重		畑　耕二
9．誰のラジコン*	弟にラジコンを譲るべき 友だちにラジコンを譲るべき	4　公正・公平　権利義務 権利義務	①②	山本悦郎
10．ほんとうのおくりもの*	ポシェットを贈るべき シャープペンを贈るべき	4(1)　規則尊重　1(5)　明朗・誠実 2(5)　尊敬・感謝	②⑬	徳永悦郎
11．ロンと別れたくない	こうすけにロンを譲るべき 青木さんにロンを譲るべき	3(1)　動植物愛護　2(3)　信頼・友情 3(1)　動植物愛護	①②	山本悦郎
12．ぜったいひみつ* ★(5)	本当のことを話すべき 本当のことを話すべきでない	2(3)　信頼・友情　4(1)　約束の尊重	①② ⑦⑬	畑　耕二

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
13. サルビアの花	手伝ってもらったことを言うべき	1(5) 明朗・誠実	④	魚住知代
	手伝ってもらったことを言うべきでない	2(3) 信頼・友情・助け合い		
14. 早くしなければ	持って行くべき	2(3) 信頼・友情・助け合い		松本 朗
	言うべき	4(1) 公聴心，約束の尊重		
15. 逃げたウサギ	ウサギを探して捕まえるべき	2(3) 信頼・友情・助け合い	④⑧	山田勝則
	そろばんの検定に行くべき	1(3) 向上心		
16. みんなが待っている	子犬を助けるべき	3(1) 動植物愛護	④	植田和也
	助けないで学校に行くべき	4(1) 約束，決まりの尊重		
17. ルールを変えろって* ★(6)	このまま続けるべき	公正・公平 4(1) 約束，決まりの尊重	④	植田和也
	ルールを変えるべき	2(2) 思いやり 2(3) 信頼・友情		
18. もどるかもどらないか	チームにもどるべき	1(3) 向上心，2(3) 信頼・友情		伊藤裕康
	チームにもどるべきでない	2(3) 信頼・友情，1(4) 正義・勇気		
19. かさを持たずに	かさから出るべき	1(2) 思慮・反省		森川智宏
	かさから出るべきでない	2(2) 思いやり・親切，2(3) 信頼・友情		
20. お楽しみ会の練習	参加するべき	4 役割と責任の自覚，2(3) 信頼・友情		原 壽 岸本達三
	参加すべきでない	4(3) 家族愛		
21. モンローが危ない	助けに行くべき	3(1) 動植物愛護		中川 進
	助けに行くべきでない	4(1) 決まりの尊重		
22. ごはんがこげる*	飯ごうを下ろしたのは良かった	4 役割と責任の自覚		長谷川重和
	ようへいにまかせた方が良かった	2(3) 信頼・友情		
23. 紙ひこうき大会	ピョンタにあげる	2(3) 友情	⑩	依藤佐代子
	ベグにあげる	2(3) 友情		
	ノッポにあげる	2(3) 友情		
	誰にもあげない	4 公正・公平		
24. げんぞうじいさん	げんぞうじいさんを助けるべき	2(2) 思いやり・親切	⑩⑫	池永智宏
	友だちと一緒に帰るべき	2(4) 尊敬・感謝		
25. 病院の待合室で	おばあさんに順番をゆずるべき	2(2) 思いやり・親切		池永智宏
	このまま診察を受けるべき	4(1) 決まりの尊重		
26. 美味しそうな手作りケーキ	ケーキを食べるべき	1(1) 節度節制・自立	⑩⑫	松田義久
	ケーキを食べるべきでない	2(4) 尊敬・感謝		
27. 歯医者の予約	サーカーの練習を続けるべき	4(1) 約束，決まりの尊重		松田義久
	練習を止めては医者に行くべき	1(1) 節度節制・自立		
28. なかよし遠足	学校へ行くべき	2(2) 思いやり・親切	⑩⑫	松田義久
	学校を休むべき	1(1) 節度節制・自立		
29. お父さんのビール*	ビールを飲んでもいいというべき	4(3) 家族愛	⑩	松田義久
	ビールを飲むのをとめるべき	4(3) 家族愛		
30. 決まりはないけれど ★(7)	３人が同じチームになってもよい	4(1) 決まり，規則の尊重	⑧	堀田泰永
	３人が同じチームになってはいけない	4(4) 愛校心・楽しい学級		
31. 門番のマルコ ★(8)	門を開けるべき	3(2) 生命尊重	⑥⑦	堀田泰永
	門を開けるべきでない	4(1) 規則尊重		
32. たぬきのぽん太*	ぽん太を山に返すべき	3(1) 動植物愛護	⑥	堀田泰永
	ぽん太を山に返すべきでない			
33. ぽん太と章ちゃん（章ちゃんと子狸）*	ぽん太を山に返すべき	3(1) 動植物愛護，2(2) 思いやり	⑥⑦	井原孝夫
	ぽん太を山に返すべきでない	4(1) 責任		
34. ゴミ処理場がやってくる	反対しに行くべき	3(1) 自然愛護	⑥	井原孝夫
	反対しに行くべきでない	4(2) 公徳心・社会生活の維持		
35. どっちにしようか	ドッチボールを続けるべき	2(3) 信頼・友情	①	日本書籍改作
	ドッチボールをやめるべき	4(1) 規則尊重，4(3) 家族愛		
36. 花鉢プレゼント おばあさんへのプレゼント ★(10)	おばあさんに花を渡すべき	4(4) 奉仕活動，4(1) 決まり	⑫	上田仁紀 北川恵子（改作）
	おばあさんに渡すのを諦めるべき	2(2) 思いやり，親切		
37. ゴミひろい	日直の仕事をすべし	4(1) 規則尊重	⑧	大島貴子
	山田さんを助けるべき	2(2) 思いやり，親切		

小学校（高学年）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．どうする！班長	ソフトの練習に行くように言うべき	4(1) 責任	①②	徳永悦郎
	ソフトの練習に行くように言うべきでない	2(3) 信頼・友情，2(4) 寛容		
2．シンボルをつくろう！*	本当のことを言うべき	2(3) 信頼・友情 4(1) 責任		徳永悦郎
	本当のことを言うべきでない	2(3) 信頼・友情		
3．マラソン大会	走り続けるべき	1(2) 向上心		徳永悦郎
	いっしょに走るべき	2(3) 信頼・友情		

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
4．ゆきこさんの誕生日	帰るべき	4(5)　家族愛	②	加藤健志
	帰るべきでない	2(3)　信頼・友情		
5．家族旅行	お兄さんに席を譲るべき	4(2)　権利・義務	②	原　壽
	おばあさんに席を譲るべき	2(2)　親切・同情		
6．委員会活動	たかし君に百科事典を貸すべき	2(2)　親切・同情		原　壽
	たかし君に百科事典を貸すべきでない	4(1)　責任		
7．引越し	お別れ会に行くべき	2(3)　信頼・友情		新垣千鶴子
	引越を手伝うべき	4(5)　家族愛		
8．みち子の人形	人形を取りに行くべき	4(5)　家族愛，3(2)　生命尊重		徳永悦郎
	人形を取りに行くべきでない	4(2)　規則尊重，3(2)　生命尊重		
9．われた花びん	本当のことを言うべき	1(4)　明朗・誠実，4(3)　正義・勇気	①②	徳永悦郎
けい子のまよい	本当のことを言うべきでない	2(3)　信頼・友情，2(2)　親切・同情	⑭	鈴木　憲(改作)
10．お楽しみ会	よしおの班に入るべき	2(3)　信頼・友情	①②	徳永悦郎
	信一の班に入るべき	4(1)　責任		
11．サッカー大会	本当のことを言うべき	1(2)　向上心，4(1)　責任		徳永悦郎
	本当のことを言うべきでない	2(3)　信頼・友情		
12．キャットピープル	本当のことを話すべき	4(5)　家族愛	②	Kohlberg・荒木紀幸・岡田達也
	掟を守るべき	4(2)　規則尊重		
13．時計係	先生に言うべき	4(1)　責任		加藤健志
	先生に言うべきでない	2(3)　信頼・友情		
14．村長の決断*	娘を見逃すべき	4(2)　遵法 ／ 3(2)　生命尊重		伊藤裕康
	娘を見逃すべきでない	4(2)　遵法		
15．がんばれリーダー*	計画通りやるように言うべき	4(1)　責任 ／ 4(2)　規則尊重		徳永悦郎
	計画を変えることに賛成すべき	2(3)　信頼・友情		
16．母の手伝い	チームに戻るべき	1(6)　個性の伸長		新垣千鶴子
	チームに戻るべきでない	4(5)　家族愛		
17．ぼくの父さん	ドッチボール大会に行くべき	4(1)　責任	②⑦	松本　朗
	スキーに行くべき	4(5)　家族愛		
18．まぼろしのちょう	標本にすべき	1(5)　創意進取	②	黒田好晴
	逃がすべき	3(2)　生命尊重，3(3)　美しいものに感動		
19．ぼくは伴走者　★(15)	車いすを押すべき	4(1)　役割と責任の自覚	④	藤本恵美子
	車いすを押すべきでない	2(2)　思いやり・親切		
20．1000メートルへの挑戦	もう一度泳ぐべき	1(2)　不撓不屈，1(6)　向上心		堀田泰永
	帰るべき	2(2)　思いやり		
21．出店開き	色をぬるべき	2(2)　思いやり・親切		徳永悦郎
	色をぬるべきでない	4(1)　役割と責任の自覚		
22．副リーダーとして，今	引き受けるべき	4(1)　役割と責任の自覚		徳永悦郎
	断るべき	2(3)　信頼・友情		
23．重なった県大会	バレーボールの県大会に出るべき	4(1)　役割と責任の自覚		新垣千鶴子
	そろばんの県大会に出るべき	1(2)　不撓不屈		
24．背番号9の悩み	練習に出るべき	4(1)　役割と責任の自覚，1(6)　向上心		森川智之
	家族旅行に出るべき	4(5)　家族愛		
25．「村の幸せ」って何ですか*	建設すべき	4(7)　郷土愛		植田和也
	建設すべきでない	4(7)　郷土愛，3(1)　自然愛		
26．伝統の獅子舞	よいと思う	4(7)　郷土愛		堀田泰永
	よくないと思う	1(2)　勇気		
27．歴史瓦版	歴史瓦版を作るべき	1(6)　向上心，4(2)　公徳心，規則の尊重		日野正行
	友だちの演奏会に行く	2(3)　信頼・友情，助け合い		
28．郡の陸上記録会	走り高跳びに転向すべき	1(6)　向上心	④	畑　耕二
	転校すべきでない	2(2)　思いやり		
29．登校班長の仕事	みつお君を迎えにに行く	2(2)　思いやり・親切		魚住知代
	出発すべき	4(1)　役割と責任の自覚		
30．ゲンとダイ	言うべきである	4(5)　家族愛	⑩	黒川博史
	言うべきでない	3(2)　生命尊重		
31．動物好きのあすか	犬を逃がすべき	3(2)　生命尊重		黒川博史
	犬を逃がすべきでない	4(2)　規則尊重		
32．運動会	おばあさんに付きそって病院に行く	4(5)　家族愛		高木智明
	応援の道具を作りに行く	2(3)　信頼・友情		
33．楽園を求めて	伊藤さんは竹を切るべき	2(2)　思いやり		高木智明
	そのままにして鳥たちを守るべき	3(1)　自然・鳥の保護		
34．ダンス　★(16)	コピーしてもらうべき	2(3)　信頼・友情		中田光彦
	コピーしてもらうべきではない	4(2)　公徳心，規則の尊重		

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
35. ぼくの詩どう？ ★(17)	メールを送るべき	2(3) 信頼・友情	⑩	中田光彦
	メールを送るべきではない	4(2) 公徳心，規則の尊重		
36. どうする？健	足を攻めるべき	1(2) 希望・勇気・強い意志・向上心		棚澤 実
	足を攻めるべきではない	1(4) 誠実，2(2) 思いやり		
37. アメリカからの転校生	反対すべき	4(2) 規則尊重		西田智貴
	賛成すべき	2(4) 寛容，謙虚		
38. 韓国からの転校生	反対すべき	2(1) 礼儀		西田智貴
	賛成すべき	2(4) 寛容，謙虚		
39. ヤッカの決意	クジラを捕るべき	4(8) 国際理解と親善		西田智貴
	クジラを取るべきではない	3(1) 自然愛・動植物愛護		
40. カミソギの選択	遊牧の仕事をすべき	4(8) 異文化の理解と尊重		西田智貴
	町に働きに行くべき	1(5) 創意工夫・進取		
41. キャンプの中の診療所	残って診療を続けるべき	4(1) 役割と責任の自覚		村上正樹
	避難して戦闘が収まるまで待つべき	3(2) 生命尊重		
42. 図書当番の仕事 ★(9)	さとし君に本を貸すべき	2(2) 思いやり・親切	⑧	上田仁紀
	さとし君に本を貸すべきでない	4(2) 公徳心，規則の尊重		
43. しか退治 ★(11)	しか退治をするべき	2(2) 思いやり・親切		井原孝夫
	しか退治をするべきでない	3(1) 自然愛護		
44. 東雲の丘のうめおばあちゃん ★(12)	家族旅行に行くべき	4(5) 家族愛		新垣千鶴子
	ボランティア活動をするべき	4(4) 奉仕活動		
45. 残ったおかず ★(13)	おかずを食べる	2(5) 尊敬・感謝	⑧⑩	佐々木寿洋
	おかずを残す	1(1) 思慮・反省・節度・節制		
46. がんばれおじいちゃん* ★(14)	入院を続ける	2(2) 思いやり	⑧	三浦昌道
	退院する	4(5) 家族愛		
47. プライバシー（桜貝のキーホルダー） ★(9)	プレゼントに応募するべき	2(3) 信頼・友情	⑧	中田光彦
	プレゼントに応募するべきではない	4(2) 公徳心，規則の尊重		
48. 愛犬とくらす―どっちが正しいか―*	飼い犬に対するアメリカ的な言い分	3(1) 動植物愛護		森川智之
	飼い犬に対するイギリス的な言い分	4(8) 異文化理解		
49. おーい，どこへいくんや*	留まる	3(2) 生命尊重	⑥	三好利幸
	助けに向かう	2(2) 思いやり		
50. おじいちゃんとおばあちゃんがいます	弟のしたことは正しい	3(2) 生命尊重	⑥	三好利幸
	弟のしたことに正しくない	4(2) 公徳心，1(5) 正直		
51. お肉を食べたらいけないの？	お母さんの行為に賛成	2(2) 思いやり，4(2) 公徳心		
	お母さんの行為に反対	1(4) 素直な生活		

小学校（全般）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．どっちにしようか	お母さんとの約束を守って帰る	4(5) 家族愛	①	東京書籍改作
	野球を続ける	2(3) 信頼・友情，1(2) 向上心		吉田重郎

中学校（1年生）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．ぼくには言えない	友だちの名前を言うべきである	2(3) 友情・信頼，4(2) 社会秩序	③⑰	野口裕展
	友だちの名前を言うべきでない	2(3) 友情・信頼		
2．二つの誕生会	友だちのところに行くべき	1(3) 誠実，2(3) 友情	③	野口裕展
	父のところに行くべき	1(3) 誠実，4(6) 家族愛		
3．ぜったい，ひ・み・つ	事情を説明すべき	2(3) 友情・信頼，1(3) 誠実		野口裕展
	約束を守り，秘密にしておく	2(3) 友情・信頼，4(1) 集団生活の維持		
4．この子のために	暴行，窃盗は許される	3(2) 生命尊重，4(6) 家族愛	①③	Kohlberg
	暴行，窃盗は許されない	4(2) 遵法精神，4(3) 正義	⑪⑮	荒木紀幸
5．最後のチケット*	場所を取り戻すべき	4(2) 公徳心　1(2) 勇気・希望	①③	野口裕展
	場所を譲るべき	4(3) 公正・公平		
6．アルメニア大地震（奇跡の生還）	ジュリエッタの行為は正しい	3(2) 生命尊重，4(6) 家族愛	③⑨	永田彰寿
	ジュリエッタの行為は正しくない	4(2) 社会秩序，4(3) 公正・公平		
7．勇気ある大学生	平野さんたちの行為は勇敢であった	1(2) 勇気，4(3) 正義	③	野口裕展
	平野さんたちの行為は蛮勇であった	3(2) 生命尊重		
8．テレビゲームはダメ！	学校の指示に従う	4(1) 集団生活の維持		野口裕展
	計画通りに実施できるように働きかける	4(7) 学校の一員としての自覚，1(3) 自主自立		
		1(5) 個性の伸長，4(1) 役割と責任自覚		
9．「観光」か「規制」か	「観光」を優先させる	2(5) それぞれの立場の尊重	③	野口裕展
	「規制」を継続する	3(2) 生命尊重		

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
10. いいじゃない，それくらい！	ルール違反を大目に見るべき	2(2)　温かい人間関係	③	野口裕展
	ルール違反を厳しく処分するべき	1(3)　自主・自立，4(1)　役割と責任自覚		
11. あなたならどうする？	答えを調べる	4(2)　自他の権利(所有権)		野口裕展
	分する(燃やす・先生に届ける)	2(3)　友情(個人的利益)		
		4(3)　公正・公平		
12. 賞状*	東京タワー見学の判断は正しかった	4(1)　集団生活の向上	⑪⑯	松尾廣文
	東京タワー見学の判断は正しくなかった			
13. 幸せな人生とは*	おばあちゃんの人生は幸せだった	1(5)　個性の伸長	⑪	長谷川珠里
	おばあちゃんの人生は幸せでなかった	4(1)　役割と責任の自覚		
14. とび箱とぼう作戦	補助がイヤだと先生に言うべき	2(4)　男女における人格の尊重		長谷川珠里
	補助がイヤだと先生に言うべきでない	4(1)　役割と責任の自覚		
15. ヤマメの古里　★(19)	開発を進めるべき	4(8)　郷土愛	⑨	田村浩司
	開発を進めるべきでない	3(1)　自然愛		

中学校（2年生）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．手術中止	手術すべき	3(2)　生命尊重，2(2)　人間愛	①③	野口裕展
	手術すべきでない	4(2)　遵法精神，2(5)　寛容・謙虚		
2．誰の責任ですか	隣人・国に責任がある	3(2)　生命尊重，4(1)　社会的責任		野口裕展
	隣人に責任がない	4(1)　集団生活における役割と責任		
3．どうして認められないの	丸刈りにすべき	4(1)　集団生活の維持	①	野口裕展
	丸刈りにすべきではない	1(3)　自律の精神，1(4)　理想の実現		
4．優子のジレンマ	水道指導をすべき	4(4)　社会への奉仕，3(2)　生命尊重		野口裕展
	水道指導をすべきではない	1(2)　向上心，4(1)　集団生活の維持		
5．修学旅行の思い出	事務所に届けに行く	2(2)　思いやり，1(3)　誠実		野口裕展
	バスに戻る	4(1)　集団生活の維持		
6．銀の燭台	本当のことを言う	4(2)　遵法精神		永田彰寿
	本当のことを言うべきではない	2(2)　人間愛・思いやり		
7．ヘルガの葛藤	かくまうべき	3(2)　生命尊重，2(3)　友情・信頼		荒木紀幸
	かくまうべきではない	4(2)　遵法精神，4(5)　家族愛		
8．本当のやさしさとは*　★(20)	ガンを告知すべきである	3(2)　生命尊重	①③	丸山屋敏
	ガンを告知すべきではない	2(2)　思いやり	⑦⑰	
9．最終決定	父親の意見に従ってB高校を受験すべき	2(5)　寛容・謙遜，4(5)　家族愛	①③	野口裕展
	自分の意志に従ってA高校を受験すべき	1(3)　自主自律，1(5)　個性伸長	⑰	
10．班を作ろう	学級毎の生活班に統一する	4(1)　集団生活の向上	①③	野口裕展
	仲良しグループを作る	4(6)　学校の一員としての自覚		
		4(1)　集団生活の向上，2(5)　相互理解		
11．文通*	交際を受け入れる	2(4)　男女の在り方	①③	松尾廣文
	交際を断る	2(3)　友情	⑯	
12．信二の「トライやる・ウィーク」*	希望を通すべき	1(5)　個性の伸長	⑪	長谷川珠里
	希望を変えるべき			
13．健二の迷い	先生に言うべき	4(1)　役割と責任，4(2)　遵法精神，4(4)　正義		小川　聡
	先生に言うべきでない	2(2)　思いやり，2(3)　友情		竹田敏彦
14．氷河上の決断　★(22)	救助活動を継続すべき	3(2)　生命尊重，2(2)　人間愛	⑨	奥村光太郎
	救助活動を継続すべきでない	3(2)　生命尊重，2(2)　人間愛		

中学校（3年生）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．尊厳死	認めるべき	3(2)　生命尊重，3(3)　人間性	①③	山田弘子
	認めるべきでない	3(2)　生命尊重，4(2)　遵法精神		
2．ママ，酸素切って	安楽死させるべきである	3(2)　生命尊重，4(2)　遵法精神	③	野口裕展
	安楽死させるべきでない	3(3)　人間性，3(2)　生命尊重		
3．正しいのは俺たちだ*	取り上げるべき	4(3)　公正・公平　4(2)　権利と義務	③⑬	吉田重郎
	待つべき	2(2)　思いやり，2(5)　思慮		
4．出場停止	出場を辞退すべき	4(6)　学生の自覚，4(1)　集団生活の維持	③	野口裕展
	出場を辞退すべきでない	1(3)　自主自律，1(5)　個性伸長		
5．真実を知るものとして	真実を公表すべき	3(2)　生命尊重，1(3)　誠実	③⑧	野口裕展
	真実を公表すべきでない	4(1)　社会的責任，4(5)　家族愛		
6．「あゆみの会」存続問題	土地を売るべき	4(1)　社会的責任，4(5)　家族愛	③	野口裕展
	援助を続けるべき	4(7)　公共の福祉，2(2)　思いやり		
7．正男さんの悩み	会社の方針に従うべき	4(5)　勤労の尊さ		丸山屋敏
	販売を自主規制すべき	4(1)　集団生活における役割と責任		

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
8．困ってしまった王様	処刑すべき	4(2)　遵法精神	③	丸山屋敏
	処刑すべきではない	2(2)　思いやり		
9．ドラフト制度	太郎は指名された球団に入団すべき	4(2)　社会秩序と規律の維持		野口裕展
	あくまでも希望する球団に入団すべき	4(5)　勤労の尊さの理解		
		1(5)　個性伸長，4(2)　権利の尊重，義務の履行		
10．消えたハーモニー ★(18)	合唱コンクールに出場すべき	4(1)　集団の一員としての自覚	③⑦	松尾廣文
	セレクションに出場すべき	1(5)　個性の伸長，自己の向上	⑫	
11．田中さんのジレンマ ★(24)	田中さんの行為に賛成	3(2)　生命尊重，4(5)　家族愛	⑨	Kohlberg・荒木紀幸・鈴木　憲
	田中さんの行為に反対	4(2)　遵法精神，4(2)　自他の権利(所有権)		
12．クローン人間誕生* ★(25)	クローン人間を誕生させるべきである	2(2)　人間愛の精神，3(2)　生命尊重		荊木　聡
	クローン人間を誕生させるべきでない	4(10)　人類の幸福		
13．どっちが悪い ★(23)	太郎がより悪い	4(2)　遵法精神，4(3)　公正・公平	⑦⑨	Kohlberg
	次郎がより悪い	4(2)　遵法精神，4(3)　公正・公平		荒木紀幸
		2(2)　人間愛，1(4)　真理愛		
14．生死の分水嶺―安楽死について*	安楽死を行うべき	3(2)　生命の尊重	⑪	荊木　聡
	安楽死を行うべきでない			
15．One for All*	研一の考えに共感できる	4(1)　集団生活の向上	⑪⑯	松浦之康
	陽輔の考えに共感できる			
16．まだ幕は上がらない	公演に	4(5)　勤労の貴さ	⑪⑯	松尾廣文
	県大会の選考会に参加すべき	1(5)　向上心，個性の伸長		
17．「ホーム・ベース」を踏む日まで	奥多摩大附属高校に進学すべき	1(5)　向上心，個性の伸長	⑪	松尾廣文
	武蔵野医科大高校を受験すべき	4(5)　家族愛，3(3)　生きる喜び		
18．ファロパさんの決断―私たちの島が沈む*	子どもたちを連れて移住する	3(2)　生命尊重，4(5)　家族愛，4(8)　郷土愛		伊藤裕康
	おじいさん，おばあさんとツバルに残る	4(5)　家族愛，4(8)　郷土愛		太田昌子

中学校（全般）

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
1．南洋のキラ ★(27)	開発すべき	4(7)　郷土愛(郷土の発展)	④⑥	松尾廣文
	開発を中断すべき	3(1)　自然愛(郷土の保全・自然愛)	⑦⑯	
2．きずな*	そろって九州に行くべき	4(5)　家族愛	④	松尾廣文
	お父さんだけ単身赴任するべき			
3．古墳発見！	古墳発見を発表すべき	4(7)　郷土愛	④	野口裕展
	古墳発見を発表すべきでない	4(2)　権利・義務(生活権)		
4．壊れたフロッピーディスク ★(28)	コピーすべき	4(1)　役割と責任の自覚		門脇岳彦
	コピーすべきでない	4(2)　権利・義務(自他の権利・所有権)		
5．6千人の命	ピザを発行すべき	2(2)　人間愛		伊藤裕康
	ピザを発行すべきでない	4(2)　権利・義務，公共心，規律，4(5)　家族愛		
6．フルートは悲しむか	部活を続けるべき	4(1)　役割と責任の自覚		内田有一
	部活を止めるべき	1(5)　個性の伸長，自己の向上		
7．Y医師の悩み*	病気を学会で発表すべき	4(1)　役割と責任の自覚		森永　進
	病気を学会で発表すべきでない			
8．甲子園でプレーがしたい	R高校へ行くべき	1(5)　自己の向上	④⑯	堀田泰永
	R高校へ行くべきでない	2(3)　友情・信頼		
9．きれいな水のバロメーター，北陸サンショウウオ	止めるように言うべき	3(1)　自然愛，3(2)　生命尊重	④	堀田泰永
	続けるように言うべき	4(7)　郷土愛		
10．町長の悩み	屋敷を町に譲るべき	社会的責任　4(4)　公共の福祉		伊藤裕康
	屋敷を町に譲るべきでない	4(5)　家族愛		
11．学級劇が始まるよ	学校に行くべき	4(1)　役割と責任の自覚		丸山屋敏
	おばあさんを助けるべき	2(2)　思いやり		
12．ぼくは見なかった	通報すべき	4(3)　公正・公平		丸山屋敏
	通報すべきでない	市民生　2(2)　思いやり		
13．校内水泳大会	裕子さんを参加させるべき	4(1)　役割と責任の自覚		丸山屋敏
	裕子さんを参加させるべきでない	2(2)　思いやり		
14．最後の打者	敬遠すべき	4(1)　役割と責任の自覚		丸山屋敏
	敬遠すべきでない	1(2)　勇気，1(5)　向上心		
15．うるわしき伝統 ★(21)	賢一の意見に賛成	4(6)　愛校心，2(1)　礼儀，4(3)　社会連帯	⑨⑫	松尾廣文
	行雄の意見に賛成	4(1)　役割と責任の自覚	⑯	
16．ミラクルバード ★(26)	捕獲すべき	3(2)　生命尊重，2(2)　思いやり	⑨⑫	宮本史郎
	捕獲すべきでない	3(2)　生命尊重		
		4(1)　公徳心(地球全体の生物の保護)		

高等学校対象　モラルジレンマ資料

資料題名	判断の内容	中心的な内容項目（価値）	出典	原案
１．もう一つの犬の消えた日　★(29)	ゼロを供出する ゼロを供出しない	4（6，8，9）　国家・社会・家族等の集団の一員としての自覚 3(2)　生命尊重	⑨⑫	伊藤裕康 永田成文
２．独生子女（一人っ子政策）　★(30)	女性を見逃さない 女性を見逃す	4（6，8，9）　国家・社会・家族等の集団の一員としての自覚 3(2)　生命尊重	⑨	永田成文 伊藤裕康

注１）小学校中学年対象　モラルジレンマ資料
12．ぜったいひみつ*　★(5)　　原案（畑　耕二）を用いた授業は一主題１時間で畑　耕二により行われた．

高学年（５年生）対象で行われた授業では一主題２時間授業で鈴木憲によって行われた．以下に掲載されている．
佐野安仁・荒木紀幸編著　1990『道徳教育の視点』２．「信頼・友情」対「規則尊重」鈴木憲指導者「ぜったいひみつ」77頁～91頁　晃洋書房

注２）モラルジレンマ授業のモデル授業（小学２年・４年・６年・中学１年）がVTRに収録され，明治図書から出版されている．
○モラルジレンマの授業　1995年刊
ビデオで授業レッスン　①まほう使いのプレゼント・小学２年　授業者・畑　耕二／解説書付・荒木紀幸　明治図書
②ぜったいひみつ・小学４年　授業者・畑　耕二／解説書付・荒木紀幸　明治図書
③サッカー大会・小学６年　授業者・徳永悦郎／解説書付・荒木紀幸　明治図書
④この子のために・中学１年　授業者・鈴木　憲／解説書付・荒木紀幸　明治図書

表２　モラルジレンマ資料（30編）

１．ぽんたとリンリン（小学校低学年－公正・公平）＊

ぽんたは病気で寝ているおかあさんだぬきに柿を食べさせたくて，一日中探してやっと柿を１つみつけた．木に登れないぽんたは，自分の名前を書いた紙を木にぶら下げ，棒を探しにでかけた．ところが朝から何も食べていないリンリンがその柿を見つけ，枝から柿をとって降りてきた．そこに長い棒を持って帰ったぽんたと出会い，柿の所有をめぐってどちらも正当性を主張して譲らない．柿は誰のものか？どうするのがよいか？

２．もみじのはっぱ（小学校低学年－公正・公平）＊

動物たちが楽しみにしている秋のオリエンテーリング競争がはじまりました．森の中をもみじの葉っぱやドングリなどを規定の数だけ集めて，その早さを競います．優勝すれば大きなトロフィーがもらえます．先を走っていた友だちのコンチキがもみじの葉っぱが１枚たりないとあわてています．タッチが集めたもみじの葉っぱの枚数を数えてみると１枚多いのです．コンキチは困った顔をしてもみじの木の方を見ています．タッチはもみじの葉っぱをコンキチにあげるか，捨てるか，そのまま持って走るか，どうすればよいか迷ってしまいました．

３．くものすとちょう（小学校低学年－動物愛護・生命尊重・思いやり・親切）

公園であそんでいたたかしとひろしが，クモの巣にひっかかってばたばたしているチョウをみつける．チョウを助けたいが，クモの目が気になり，にがそうか，どうしようか，迷ってしまった．二人はどうするのが一番いいのだろうか？

４．とうもろこしができた（小学校低学年－公平・公正な分配；規則の尊重，家族愛，感謝）＊

とうもろこしの種を見つけた二人の子どもたちがお父さんねずみとと一緒にとうもろこし作りをはじめました．仲良しのウサギさんに畑を借りました．ぞうさんが長いハナを使って，池から水を運ぶのを手伝ってくれました．とうもろこしの茎はどんどん大きくなって，ついに実をつけました．お父さんは，

収穫した２つのとうもろこしを前に，子どもたち二人，手伝ってくれた仲間の二人に，どのように分ければよいか，迷っています．

５．お母さんとすてねこ（小学校中学年－動物愛護・生命尊重・約束・家族愛）

つとむはかわいいすてネコを家につれてかえる．しかし，母に叱られて，元の場所にかえしに行く．その夜，すてネコは二度とひろってこないと約束させられる．１週間後，同じ道を通っていて，変わり果てたすてネコに再び出会う．ネコをつれてかえるのがよいか，そのままおいてかえるのがよいか，つとむくんはどうするのがよいか？

６．ルールを変えろって（小学校中学年－規則の尊重・思いやり・親切・信頼・友情）

かんけりをして遊んでいたが，続けて５回もおにになり，交代できそうにないこうたの様子を見て，ルールを変えて交代すべきかどうかについて主人公勇次が悩んでいる．勇次は，明男やひろしに「こうたがかわいそうだし，交代しよう…．」と言うが，ふたりはなっとくできない．楽しく遊ぶためには，みんなはどうすればよいか？

７．決まりはないけれど（小学校中学年－規則尊重・愛校心・楽しい学級）

今月のお楽しみゲームにバスケットボールをやることが学級会で決まりました．話し合いで，好きな人同士でチームを作ってよいことになり，チームが次々に誕生していきました．ミニバスケットクラブの仲良し３人が入ったチームも名乗りを上げました．すると，「いくら自由でもミニバスケットクラブの３人が同じチームになったら絶対勝つに決まっていると思います．３人は別れた方がいいと思います．」と美枝子が手をあげて言いました．「３人が同じチームになっちゃいけないという決まりはない．」と３人の一人が言いました．それを聞いたクラスのみんなはざわめきました．どうするのがよいのでしょうか？

８．門番のマルコ（小学校中学年－規則・人命尊重）

主人公のマルコは王様のお城を守る門番である．マルコが番をする門には，「戦いに行くときにしか決して開けてはならない」という決まりがある．この決まりは，昔この門を開けて敵に攻め込まれたことから，王様が決めた決まりである．ある時，狩りに出かけた王様は，ひどい熱を出し，急いで城へ帰らなければならず，近道であるマルコの門へと向かった．門番として，家来として，マルコは門を開けるべきか，開けるべきでないか？

９．図書当番の仕事（小学校高学年－思いやり・親切・公徳心・規則の尊重）

学校の代表として科学研究の発表をするさとしは明日に発表会をひかえて，手直しのために図書室で熱心に調べものをしている．４時半の下校のチャイムがなり，図書委員長のめぐみはいそいで図書室を出るようにさとしをうながしている．するとさとしは明日の朝までなんとか本を貸してくれるように頼んでいる．しかしそれは貸出禁止の本である．めぐみはどうすべきか迷っている．めぐみは，さとしの願いに応えてその本を貸すべきか，それとも図書室のルールを守って断るべきか？

10．花鉢プレゼント（小学校高学年－思いやり・社会奉仕）

まさる君の学校では，毎年一人暮らしのお年寄りにはち植えの花をプレゼントします．まさる君の今年の担当は山田すずさんというおばあさんです．まさる君は，はりきって，自分の育てた花をおばあさんの家まで運びました．でも，おばあさんは，「足が不自由で花の世話ができないから．」と言って，花を受け取ってくれません．まさる君はどうすべきですか？

11．しか退治（小学校高学年－自然愛護・思いやり・親切）

夏休みに祖父母の家に泊まりに行ったときのことだった．４年ほど前から鹿が畑を荒らすようになったという．今年は祖父母が一生懸命作っていた西側

の畑の野菜が食い尽くされたことを知った．ぼくは鹿が許せなくなった．そこでいとこのこうちゃんとしか退治の計画を立てた．おじさんにそのことを話したら，そこは日本ジカの捕獲禁止区域だと聞かされる．おじさんは，「鹿の生活環境を変えたのは人間だ．しかも被害者ともいえる．」と話した．おじさんの「鹿が悪いわけでない」という言葉でぼくは，「しか退治をすべきか」「しか退治をすべきでないか」で迷ってしまった．

12．東雲（しののめ）の丘のうめおばあちゃん（小学校高学年－奉仕・家庭愛）

主人公ゆみ子は，単身赴任をしている父が久しぶりで帰ってくるので，家族の一泊旅行を計画する．ところが，ボランティア活動で訪問した老人ホームの運動会が家族旅行の日にちとかち合ってしまう．ゆみ子は，身よりのないうめおばあちゃんのために運動会に行くべきか，父のために家族旅行に行くべきかで迷ってしまう．ゆみ子はどうすべきか？

13．残ったおかず（小学校高学年－尊敬・感謝・思慮・反省・節度・節制）

ある日の３年Ｃ組の給食時間．これまで「残さずに食べきろう」とみんなで約束して頑張ってきたが，給食終了が鳴ってもおかずが残ってしまう．それは，みんなに人気のないひじきサラダが１品あったこと，家庭科の調理実習でおやつを食べたこと，１名の欠席者，担任の先生が４時間目から出張に出たことなどが原因している．再度みんなが協力してこれまで通り残さずに食べきるべきか？それとも今回は給食を残すべきか？どうするべきか？

14．がんばれおじいちゃん（小学校高学年－思いやり・家庭愛）

太郎の家は５人家族．両親は共働きで，太郎は小さい頃から祖父に面倒をみてもらいながら育った．祖父が足を骨折し入院している．そんなある晩，祖父が退院したがっている様子を太郎が話す．父は，祖父について，年をとっているのでリハビリしても元のように歩けないこと，トイレや入浴には家族の助けがいること，退院するなら家では一人にしないこと，など医者から言われていることを話し，退院に難色を示す．母は仕事を辞めて祖父の世話をするという．太郎は，祖父を退院させるべきか，入院を続けるできか，考え込んでしまう．さてどうすべきか？

15．ぼくは伴奏者（小学校高学年－役割と責任の自覚・思いやり・友情）

小さい頃から友だちのひろしは，足が不自由なためにずっと車いすで生活している．どうしても体を動かすことが苦手なそのひろしが６年生になって，町内のマラソン大会に出たいと言いだした．何とか完走したいというひろしの真剣な目を見て，ぼくは伴奏者を引き受けた．

車いすでマラソン大会に参加するためには，体の調子が悪くなることに備えて，伴奏者がいなければならない．しかし伴奏者の手を借りれば，失格になる．

大会では緑公園を３周する３キロを走る．平らな道が多いが，ゴール手前は上り坂になっている．弱音を吐くひろしを励まして，毎日二人で練習を続けた．そして，マラソン大会が始まり，いよいよゴールまであと少しのところで，ひろしの手は血がにじみ，車いすがなかなか前に進まない．後ろに滑らないようにするので精一杯にみえた．ぼくは絶対完走する，そんな口調のことばが返ってきた．完走させたい．車いすがずるずる後ろに下がりはじめた．危ない．

ぼくは車いすを押すべきか，押すべきでないか？

16．ダンス（小学校高学年－公徳心・規則尊重・信頼・友情）

美奈子は親友であるアイのために開かれるお別れ会で，みんなで人気のグループのCDを使ったダンスを踊る計画を立て，練習を重ねてきた．しかし，お別れ会の当日，そのCDを姉が使うので，そのコピーをもっていくことを進められる．しかし，放送委員会の先生からCDをコピーすることは法律で禁じられているという「著作権」について話を聞いていた美奈子は，CDをコピーすべきかどうか悩んでいる．美奈子はどうすべきですか？

17. ぼくの詩どう？（小学校高学年－公徳心・規則尊重・思いやり・親切）

ぼくは親友である真也から，「入院している子から自分の作った詩の感想を書くと共に，他の人にもこのメールを回してほしい」というメールを受け取った．しかし，父親から「チェーンメール」といって「ネチケット」に反することは良くないと言われた．「ネチケット」というのはインターネットをするときにもエチケットがあって，自分の勝手気ままに他人の名前を使ったり，他人に知らせたりしてはいけないことだ言い聞かされていた．ぼくはどうすべきか？

18. 消えたハーモニー（中学１年－個性の伸長・集団生活の一員）

校内合唱コンクールに向けての練習が今ひとつ盛り上がらない３年Ｂ組を舞台に，学級委員長の俊樹は男子のバスの音取りに一生懸命である．

そんな時，俊樹の念願の夢・東京学院附属サッカー部のセレクションが雨で順延になり，合唱コンクールの日にちと重なってしまった．俊樹がいないとＢ組は運動会に続いて合唱コンクールもまた最下位の可能性が高い．

俊樹はどちらに参加すべきか悩んでいる．どうすべきか？

19. ヤマメの古里（中学１年－自然愛・郷土愛）

この話は過疎化，高齢化が進む九州の自然豊かな片田舎が舞台である．突然起こったレジャー開発に対して，開発に「賛成」「反対」の全住民をあげての運動が展開されている．今村長は行政の責任者として最終決断をしなければならない．

さて村長はどうすべきであるか？

20. 本当のやさしさとは（中学２年－生命の尊重）

末期ガンと診断された売れっ子の文筆家の佐藤さんに，奥さんはその事実を告知すべきかどうかで悩んでいる．佐藤さんは，自分の体調が思わしくないのは只働き過ぎで疲れがたまっているからだと思っている．

奥さんはどうすべきか？

21. うるわしき伝統（中学２年－礼儀・集団生活の向上）＊

剣道部を舞台に，伝統的武道としてのあり方から先輩と後輩のけじめをつけなければならないと主張する２年生の賢一と自由で平等な雰囲気こそ大切だと主張する１年生部員の行雄との間で衝突が起こる．

「部の和」を取り戻すために，新しく主将になったばかりの２年生和也は，両者の狭間に立って，どうすべきかで悩んでいる．

和也はどちらの言い分を認めるべきですか？

22. 氷河上の決断（中学２年－生命の尊重）＊

京都山岳隊がポゴタ峰登頂をめざしてアタックを開始した．事故は氷河上で起こった．白木ミツ子隊員がクレパスに転落したのである．何度も救出を試みるがうまくいかない．「みんなは奥さんも子どももいるんだからー．危ないからぁー．もういいよぉー．」と叫ぶ声が返ってくる．夕闇が迫る中，救出が困難な状態のクレパスを前に，救助活動を続行すべきか，救出をうち切るべきか，山中隊長は判断に迷った．隊長はどう判断すべきですか？

23. どっちが悪い（中学３年－順法精神・公正公平）

ある事情で町を出なければならなくなった太郎と次郎の兄弟は，旅費の10万円を手に入れるために太郎は，大きな会社の事務所に泥棒に入り，盗みを働いた．次郎は困っている人を助けてくれるという評判の老人のところに行って，嘘をついてお金をだまし取った（詐欺）．盗みを働いた太郎と嘘をついてお金をだまし取った次郎とでは，どちらが悪いか？それはなぜか？

24. 田中さんのジレンマ（中学３年－人間尊重・生命尊重・法律遵守）

ガンで苦しみ死にそうになっている息子を救うために，父親である主人公田中さんは，医者からすすめられた特効薬を買うために八方手を尽くしてお金

を工面した．しかし必要なお金の半分しか用意することができなかった．薬屋になんとか薬を分けてほしいと相談するが聞き入れてもらえない．困り果て，思いあまった田中さんは，薬局に押し入ってその特効薬を盗んでしまった．田中さんは薬を盗むべきでしたか，それとも盗むべきではなかったですか？

25．クローン人間誕生（中学３年－人間愛・生命尊重・人類の幸福）

子宝に恵まれないまま10年がたった夫婦に奇跡が起こった．妊娠の事実である．夫婦はどんなに喜んだことか．しかし妊娠４ヶ月目のある日，夫婦が買い物に出かけ，事故に巻き込まれた．赤信号でつっこんできたバイクを避けるため急ハンドルを切り，壁に激突したのだ．幸い二人は無事だったが，胎児は流産してしまった．赤ちゃんを助けてと懇願する夫婦を見た院長は，極秘に研究していたクローン人間の技術を今こそ使うべきだと判断し，夫婦にその実行を願い出た．夫婦はクローン人間の誕生を受け入れるべきか，受け入れるべきでないか？

26．ミラクルバード（中学生－生命尊重・思いやり・公徳心）

絶滅の危機に瀕している生物の保護を議論する国際会議でミラクルバードが対象に上がった．その鳥のくちばしを煎じて飲めば万病に効くと言われ，昔から現地では重宝されていた．現地調査を行うことになり，隊長にリッパー博士が選ばれた．博士には不治の病に冒されている妻がいた．ミラクルバードを目にした博士は，愛する不治の病に侵された妻のためにミラクルバードを捕獲すべきかどうかで悩んでいる．隊長として，夫として，博士はどうすべきか？捕獲すべきか？それとも捕獲すべきでないか？

27．南洋のキラ（中学生－郷土の発展・自然愛護）

過疎に悩む青珊瑚に囲まれたカラウ島．そのカラウにリゾート開発の波が押し寄せてきた．この計画を実行すれば島は豊かになり，過疎に歯止めがかかることが期待できる．しかし，その実行により，島民が代々受け継いできた島の自然，特に青珊瑚や珍種に属する花や昆虫の生態に影響が出ることが予測される．島の繁栄を幼い頃から夢見ていた村長キラは，島の開発を推進すべきか，それとも断るべきか，決断の時を前に悩んでいる．村長キラはどうすべきですか？

28．壊れたフロッピーデスク（中学生－他人の権利の尊重・責任）

主人公なおきは級友と共に作成してきた学級新聞をパソコンのソフトウェアを使って仕上げる責任者となった．なおきは製作途中で不注意から誤って，ソフトウェアのフッロピィーディスクを壊してしまう．その状況で先輩のすすむはソフトウェアのコピーをすすめてきた．なおきはソフトウェアの開発会社に勤める兄から教えられた著作権のことを考え，コピーに抵抗を感じてしまう．しかし締め切りが近づき，学級の仕事を果たすという責任感と著作権の保護をするという他人の権利の尊重で，心が揺れている．なおきはコピーすべきか，すべきでないか？

29．もう１つの犬の消えた日（中学３年～高校－集団の一員としての自覚・生命尊重）

太平洋戦争当時の社会には，戦争に日本は負けるわけがない，犬を飼うことは贅沢なこと，犬も軍用犬として出征したこと，当時の子どものあこがれは兵隊になること，などが背景にあり，非国民扱いが何よりもつらい中で，主人公源太が飼う家族同然の犬ゼロに供出命令が出た．源太は，ゼロを供出するか，逃がすかで悩んだ末，ゼロをわざと冷たく扱い，遠くに逃した．しかしゼロは家に舞い戻ってきた．再びどうすべきか源太は悩んでいる．

源太はゼロを供出すべきであるか，すべきでないか？

30．独生子女（一人っ子政策）（中学３年～高校集団の一員としての自覚・生命尊重）

厖大な人口増加を抑え，経済発展をうながすために，1979年以後中国は国策として一人っ子政策を実施し，監視部をもうけている．しかしある農村の女性村長は働き手を必要とする農業には一人っ子政策は非情でその緩和を政府に訴え，「第１子が女の子で５年間あければ第２子を産んでよい」ことを勝ち

取った．そんな中，国策に反して出産を控えた女性が訴えられる．違反者が出ると国の援助がうち切られ，財政が悪化する．女性から「高齢出産である上，後１ヶ月で５年になるので，見逃してください」と懇願された女性村長は考え込んでしまう．

村長は国策を実行すべきか，女性を見逃すべきか？

＊タイプⅠのモラルジレンマ，これ以外の資料は全てタイプⅡである．

参考文献

荒木紀幸　1984「モラルディスカッションのための『モラルジレンマ』教材開発」教育工学的技法による教材開発と授業展開に関する研究　文部省特定研究報告　兵庫教育大学 Pp.23-68.

荒木紀幸・八重柏新治・前田和利　1986「規範－基本判断」判定法を用いた道徳性の測定・「規範－基本判断」判定法マニュアル　兵庫教育大学研究紀要　第６巻　Pp.97-107, Pp.108-137.

荒木紀幸・野口裕展　1987「中学生を対象としたモラルジレンマ教材と道徳の授業モデル」兵庫教育大学研究紀要　第７巻　第１分冊　Pp.55-86.

荒木紀幸　1988「道徳教育はこうすればおもしろい―コールバーグ理論とその実践―」北大路書房.

荒木紀幸・徳永悦郎・山本逸郎・新垣千鶴子・岡田達也・加藤健志・永田彰寿・日野正行・野田裕展・畑　耕二・松本朗・吉田重郎　1989　モラルジレンマ資料を用いた小・中学校における道徳の授業実践―ジレンマ資料とその構造，および授業のための指導案―　学校教育学研究　第１巻 Pp.105-133. Pp.1-13. 兵庫教育大学学校教育研究センター.

荒木紀幸　1990「ジレンマ資料による道徳授業改革」明治図書.

荒木紀幸編　1990「モラルジレンマ資料と授業展開」小学校編，明治図書

荒木紀幸編　1990「モラルジレンマ資料と授業展開」中学校編，明治図書.

佐野安仁・荒木紀幸　1990「道徳教育の視点」晃洋書房.

荒木紀幸編　1993「資料を生かしたジレンマ授業の方法」明治図書.

荒木紀幸　1996「モラルジレンマ授業の教材開発」明治図書.

荒木紀幸編　1997「続道徳教育はこうすればおもしろい」北大路書房.

研究代表荒木紀幸　1998「心の教育・命を大切にする教育に関する研究」平成９年度兵庫教育大学教育改善経費研究成果報告書.

荒木紀幸・西田智貴　2000　異文化理解のためのモラルジレンマ授業の研究―モラルジレンマ資料を用いた授業でどのような知識（イメージ）が学習されるか―　実技教育研究 第14号　兵庫教育大学　実技教育研究指導センター　Pp.105-112.

Colby, A., Gibbs, J., Kohlberg, L. & Dubin. B. S. 1978 *Standard form scoring manual.* part two. Instructions, rules and diffinitions. Center for moral education. Harvert. Univ.

Kohlberg, L., Colby, A., Gibbs, J. & Dubin. B. S. 1978 *Standard form scoring manual.* part three. Form A reference manual. Center for moral education. Harvert. Univ.